
連休の行き先は・・・

青菓子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

連休の行き先は・・・

【Nコード】

N9933G

【作者名】

青葉子

【あらすじ】

連休が近づいた、高校2年生の日。私は友達とどこかへ出かけようとするが、場所が決まらず家で考えてくることに・・・

わたしは高校2年生。今日は学校で友達と連休を使って一緒にどこかへ遊びに行く予定を立てていた。

「どこかい場所ある？」

「ごめん、まったく思い浮かばない」

そう答えると

「家で考えてきてね。明日まで！じゃないと二人して家でゴロゴロするだけの連休になっちゃうからね」

「うん、わかった」

そう答えて家に帰った。

「どうしようかな」

ポツリと独り言を言った後、ベッドの上に寝転ぶと、天井を見上げながら頭を働かす。

だがやはり何も思い浮かばない。

「ああ、どうしよう。ディズニーランドみたいな所はもの凄く人が来るし、友達の家で遊ぶのはいつでもできるし」

などと部屋で悶絶して叫んでいると、

「今、何時だと思ってるの！静かにしなさい！」

母親からの悲痛な叫びが返ってきた。

今は何時だろうと時計を見ると、なんとビックリもう1時。

ああ、明日は友達になんて言おう。

「ごめん、考えてたけど思い浮かばなかった」

とかいったら、

「あんた、また家で猫みたいにごろごろして連休過ぎす気なのね！」

とか言われるんだろうな。

確かに1年生だった頃はなんの約束もせずに連休に入ってしまったので、

家でごろごろとしていたが猫と言われるのはさすがにいやだ。

そのまま、うじうじと考えていると、

突然、目の前に田んぼが広がっていた。

きゃっきゃっと子供が元気よく走りまわっていた。

その子供は私に気づくと私の手を取り、

「一緒に遊ぼう」

と声をかけてきてくれた。
わたしがそれに

「うん、一緒に遊ぼうか」

と答えるとその子供はとてもうれしそうに笑ってくれた。
そのとき、ふとこの子供を知っている気がしたのだが、思い出せなかった。

そのまま、手をひかれて田んぼの方へと進んでいった。

「ここの田んぼにはいっぱい生き物があるんだよ。カエルとか、ザリガニとか」

子供がそう言って田んぼ中に入っていくと、
突然、ツルツと滑って田んぼに顔から突っ込んでしまった。

「ねえ、だいじょうぶ？」

私が起き上がらせると子供は

「うん、平気だよ」

と言ったが少し口の中に何か入っているらしくモゴモゴとしゃべっていた。

「お口を少し開けてごらん」

そう私が言ってみると子供は口を開けた。

すると、ピヨンっとなにかが口から出てきた。
カエルである。

私も子供も

「きゃあああああー！」

と絶叫した。

すると近くにあつた小屋から老人が年に見合わないすさまじい速さで駆け寄ってきた。

「だいじょぶかあ！」

と叫び肩でゼイゼイと息をしながら私と子供を見た。

そして老人の顔を見たとき私は、はっと気づいた。そう走ってきた、この老人は・・・

この老人は私のおじいちゃんだったのだ。

そして子供をもう一度見ると小さかった頃の私だったと気づいた。

私は小さい頃おじいちゃんの田んぼで遊んでいたのだ。

私はとつさに

「おじいちゃん！」

と叫んだ。

すると目の前の景色がゆがみはじめ、遠ざかっていくのを感じた。だがはつきりとおじいちゃんの声で、

「いつでもここへおいで。おじいちゃんは待ってるからね」

と聞こえた。

気づくと自分のベッドの上にいた。寝てしまったらしい。
時計を見て慌てて準備をして学校へ行った。

「おはよ〜」

と友達が声をかけてきた。

「行く場所考えてきた？」

私は大きく頷き、

「うん、とっておきの場所がね」

と言った。

友達は私の顔を見ながら

「とっておき？」

頭上に『？』マークを浮かべている。

「うん」

友達はもちろん聞いてきた。

「その場所は？」

私は自信たっぷりに答える。

「おじいちゃんの家」

（後書き）

はじめて書きました。読んでもらえたら光栄です。コメントももらえたらさらに光栄です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9933g/>

連休の行き先は・・・

2011年1月15日15時30分発行